

神戸ヒヨコ登山会が昨年、設立100周年を迎えた。はやり廃りの多い時代にあつて、市民手づくりの団体が1世紀も受け継がれてきたというだけで重みを感じるが、神戸ならではの登山文化を継承したという意味でも、同会の果たした役割は大きいと思う。

「毎日登山」の文化継承 ヒヨコ会

手頃な六甲山が間近にあったからだ。この動きはやがて、健康維持のための「毎日登山」という神戸特有の貴重な文化を育てることにつながった。興味深いことに、毎日登山発祥の地は吉岡善助という人物が経営していた「善助茶屋」。こちらは主に欧米人が利用していたそうだが、善助の兄弟、善太郎が営む茶屋を拠点に発足したのが神戸ヒヨコ登山会だ。

発足人は10人。「謙虚に山に登ろう」という思いから「ヒヨコ」と名付けた。頑健な登山家からやゆされたこともあったが、100年間、こつこつと登り続けた。登山会が次々と姿を消す中、先日お招きいただいたヒヨコの100周年記念式典に足を運び、驚いた。なんとまあ、元気な人たちの多いことか。これが毎日登山のたまものなのだろう。懇親会で「山が好きだ、神戸が好きだ」と語り合うメンバーの皆さん。その光景に、心の中で拍手を送った。(安福直剛)



①昨年、設立100周年を迎えた「神戸ヒヨコ登山会」。なぜ「ヒヨコ」と名付けましたか

②六甲登山が始まったきっかけは何ですか。空欄を埋めましょう

開港後に神戸にやって来た が を始め、それを がまねた。散歩に手ごろな が間近にあった

③健康維持のための神戸特有の文化は何ですか

④筆者は何に驚いていますか